

番号	8		事業名	県営かんがい排水		市町村名	原村		路河川名	—	箇所名(ふりがな)	一ノ瀬汐(いちのせせぎ)		
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>本地区の水路は江戸時代に築造された歴史的な幹線用水路であり、地域の重要なかんがい用水路として活用されている。(築造後220年余経過) 水路受益地は、原村の中央に位置する標高900m~1200mの場所で、水稲、セルリーを中心に作付けされている。 当該水路は、凍上の影響で水路の「ずれ」や「浮き上り」に伴う漏水や溢水により、安定した用水供給が確保されないことに加え、維持管理の労力が増大している。</p>												事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価
事業目的	<p>水路の改修により、農業用水の安定供給及び施設の維持管理労力を軽減し、農業経営の安定化を図る。</p>												施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価
事業概要	当初工期	H22~H26	費用対効果(当初時)	1.28	事業費(千円)	財源内訳(千円)						③施設の維持管理状況 1 定期的及び豪雨後の緊急点検、巡視は、一ノ瀬八区が中心になって行っている。(年間30回) 2 草刈りや土砂上げ等の維持管理は、一ノ瀬八区が年間3回実施している。 3 多面的機能支払交付金事業の取り組みにより、地域住民が水路の維持管理作業にかかわっている。	A	
	最終工期	H22~H27	費用対効果(評価時)	1.28	上段:当初/下段:最終()は国補事業分以内数	国庫	その他	県債	一般財源					
	当初計画内容(主な工種)	用水路工 L=1,064m			150,000 (150,000)	75,000	37,500	33,000	4,500					
	最終事業実績(主な工種)	用水路工 L=1,064m			152,000 (152,000)	76,000	38,000	34,000	4,000					
事業期間の延長、短縮理由と分析	<p>水路の一部で法面崩落が懸念される箇所が確認されたため、それに係る工法の検討と対策工事実施のため、工期を1年延長した。</p>												④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い) (施設管理者及び受益者からの聞き取り) 1 水路のずれや浮き上がりを解消したことで、 用水供給が安定 した。 2 降雨時の溢水による水路脇の洗掘がなくなり、補修等の 維持管理の労力が軽減 された。 3 既設のフリウムを再利用し、 計画事業費(物価等の変動除く)で整備することができた。
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	<p>物価、諸経費等の変動による増加</p>												改善措置の必要性	○特になし
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)										評価	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題 1 多面的機能支払事業等を活用し、施設の 適切な維持管理を継続 していく。 2 定期的に水路の劣化状態を把握し、 計画的に補修等の長寿命化対策 を行っていく必要がある。 3 本地区で碎石埋戻しによる凍上対策を実施して以降、水路の変状は確認されていないことから、県内での 凍上被害が発生している水路の対策工法として活用 できる。		
	直接的効果(定量的・定性的)	1 水路の改修により、「ずれ」や「浮き上り」に伴う漏水や溢水がなくなり、 かんがい用水が確実に供給される ようになり、農業経営の安定化が図られた。 2 水路の局所的な土砂堆積や水路脇の洗掘がなくなり、 補修作業等の維持管理労力が軽減 された。											B	
間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	1 漏水や溢水の発生抑制に伴い、土砂崩落の危険性が低下し、 災害防止の効果が図られた。										農政部公共事業評価委員会の意見	農業用水の安定供給、維持管理労力の軽減が図られており、総合評価Aが妥当と判断する。	総合評価	A
											長野県公共事業評価委員会の意見	農政部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。	県の評価案	妥当
													評価監視委員会意見	妥当
													評価の決定	A